Referee Time （審判だより80号）

2025.9.8

みなさん、こんにちは。今回は、2025 年８月日(土)～日(日)の間、長崎県で開催された令和 7 年度九州ブロック国民スポーツ大会へ本県帯同レフェリーとして派遣された比嘉由紀乃さんと髙良耕平さんペアから大会報告がありますので紹介致します。
あわせて、同大会審判長を務めました、九州ハンドボール協会九州ブロック審判長の鶴田祐一郎さん(熊本県)からも大会報告が届いていますので、皆様に紹介致します。

国民スポーツ大会第45回九州ブロック大会に参加して

沖縄県　髙良耕平

長崎県、九州ブロック国民スポーツ大会の審判員として参加させていただきました。
今回初めての九州大会でいろいろ学びのある 2 日間でした。新競技規則の移行に伴い、ステップやライン内 DF の判定がより難しくなったなと率直に感じました。鶴田さんや浦川さんには、予測と観察のところでアドバイスを貰いました。
ゴールレフリーにいるときには DF の位置(DF の足がライン内に踏み込んでいるのかライン上にあるのかそうでないのか)を常に観察すること、ステップも含めて事象が起きそうなところを予測して、適切なスピードで見極められるポジション取りをすること(特に私はダラダラと歩いていることが多いそうです)などご指摘を頂きました。
その他九州各地のトップレフリーの方々からのアドバイスや実際のレフリングを見て多くのことを学ぶことが出来ました。
私自身、まだまだ改善点が多くＢ級審査を臨む者として勉強不足を感じた 2 日間でした。
ですが、鶴田さんに『今は失敗を恐れずにどんどん試合経験を積んで自分のレフリングを身につけてほしい』との助言も頂けたので、その言葉通りこれからペアレフリーの長嶺とともに多くのカテゴリーの試合をこなして自分のレフリングを確立できるよ努力していきたいと強く感じました。
長文で申し訳ありません。
これからＢ級審査にむけて、また頑張りますので宜しくお願いします！

沖縄県　髙良耕平

２０２５年度九州ブロック国スポ予選振り返り

九州ハンドボール協会審判長　　鶴田祐一郎

① エリア内防御について（少年の部）

実際には、グレーゾーンが吹けてない場面もあったかと思います。
そこは修正をしなければならないところだと感じました。
実際の現象として、正面ではあるが DF の位置がエリア内に触れている（侵入）場面があったため、的確な見極めのためには DF の位置と DF と OF の位置関係を見極めること。もちろん、これまで通り押し込まれるケースもあるため、見極めが必要と感じました。
少年の部は、7 メートルスローが大幅に増えたという感覚はありませんでしたが、

チームからは、攻撃側ベンチからは、相手 DF に対して「エリア内に入ってるのではないか」、逆に防御側ベンチからは、「え、これで 7 メートルとられるの？」などのアピールもありましたので、DF との位置関係をしっかり見極めていきましょう。

（成年の部）

チームにおいても「ゴールエリアへの侵入の定義」について、共通理解が必要であると感じた。ゴールエリアラインに触れれば 7 m という単純理解なチームもあるため、

・「明らかな得点チャンス」の定義

・レフェリーの観察視点であるＤＦとＯＦの位置関係の見極め

・なんでもかんでも 7 m ではないことなど伝えていかなければならないと感じた。

②ステップについて（少年の部）

今大会もキレキレの沖縄県比嘉さんより、 0 ステップ、次の 1 歩目を確実に見極め、そこから、2 歩目、3 歩目と数えるということ。

そのステップを見極めることの出来る位置どりを探す。

（成年の部）

全体的に大きな混乱は感じられなかったが、感覚ではなく数える視点を持つこと、ゴール方向への攻撃展開が始まった時点で、ステップが絡むプレーヤーの動きが見える位置を探す。

③パッシブについて（少年の部）

・通常の組み立て局面（最初の戦術）

・より短い組み立て局面

ここを見極めて、スピーディーな展開を促す声掛けや BL も必要と感じた。神田・小牟禮(鹿児島)ペアはチームにたいして「テンポアップ」の声掛けを行っていた。

チームも反応、対応する動きを始めたため、とても有効的と感じました。

（成年の部）

・大きな問題点は無し。「目的」、「状況」を理解していきましょう。

④方向性が違う判定については必ず協議を行うこと。（少年・成年の部）

このことについては、ペアにおいて、領域がどっちであるかの確認は必要なため、通信機器を使い判定をしていきましょう。

実際に今大会でも数件あったため、その場合は必ず短い時間で協議→競技再開。必要な場合はチームへの説明（簡潔に）も行う。

⑤スローオフエリアについて（少年の部）

今回は、レフェリーの皆様のおかげで、非常にクリーンでした。ウィングプレーヤーの飛び出しにも反応できていたと思います。

各種スローや 3m 保持、ポイントなど、序盤から目を摘んで丁寧にいきましょう。

（成年の部）

・堀川、内海ペアは、インカムで「スローオフエリアＯＫ」などペアで確認しながら実施されていた。不正（ウイングプレーヤーの飛び出し含め）な位置取りの場合は笛を吹かず、正しい位置でのスローを徹底していきましょう。

⑥コート、ジャッジーズテーブルなどについて（少年の部）

初日、少年の部レフェリーでコートチェックを実施。

ゴールネット、ベンチの椅子の数など修正が必要な部分は実施しております。

ローカルオフィシャル、テクニカルの方々もしっかり動かれていますので、心配ないかと思います。感謝申し上げます。

（成年の部）

・タイムアウト後の再開で、CP ７名（ＧＫ１名）で再開、１名指名退場となった場面あり。チームの責任でもあるが、レフェリー、TO で確認して再開を徹底していきましょう。

⑦接触プレーに関しては、そこまで悪質なものもなくクリーンなゲームが多かったと感じました。（少年の部）

レフェリーの皆様の基準作りやレフェリングの成果だと感じます。

ベンチからのアピールはありますが、誠実に対応し、クレームにはテクニカルと協働して毅然と対応していきましょう。

（成年の部）

・レッドカードの事象が２件あり。競技規則に則った正しい判定だったと思います。８―３の判断基準を基に、８－４．８－５の判定をしっかり判定できるように務めましょう。

⑧ハンドボールの特性である、3 歩 3 秒 3m の部分で、アドバンテージの適応について、もう一度確認をお願い致します。不要な笛、遅れてでも吹かなくてはならない笛は、スピーディーな展開の他、安心安全な運営にも繋がるところだと思います。

⑧浦川審査指導員より（少年の部）

各レフェリーの方々にアセスメントを実施して頂きました。

基準作りを目標にあげられていたペアが多かった中、最初（全ての判定における 1 回目の笛）の笛を大事にすること、声掛けや BL を有効に使うことをアドバイスされました。

成年の部のレフェリーの方々はペア、そして個人で意識されて下さい。

（成年の部）

・PV ゾーンの観察について、適切に BL や声掛けをしっかり行い管理していくこと。

・強さをどのように表現するかも大事。ベンチから言われた時こそ強さを示すとき。毅然と振る舞いましょう。

・試合はアップの時から始まっています。レフェリーもアップ時の立ち振る舞い（レフェリーとしての雰囲気をみせる）も大事。

・チャージングの判定に不安定さを感じるため、どのような状況（ＤＦ、ＯＦの状態、位置関係）がチャージングなのかをペアで確認して欲しい。

以上、乱筆乱文にて失礼致します。

新ルールについては、もう少し時間がかかるかもしれませんが、レフェリーサイドから伝えていきましょう。

誠実に、そして、常に学ぶ精神を忘れず、皆で九州のハンドボールを盛り上げていきましょう。

最後に、皆様の益々のご活躍を祈念致します。引き続きよろしくお願い申し上げます。

九州ハンドボール協会
審判長 鶴田祐一郎

Referee Time （審判だより81号）

2025.9.8

みなさん、こんにちは。今回は、2025年８月22日(金)～25日(月)の間、本県で開催された令和７年度全国中学校体育大会第54回全国ハンドボール大会へ九州代表として坂本翔作さん･棚原崇さんペア、金城久徳さん･金城康太さんペア、日本協会指名レフェリーとして知念昌平さん･新垣裕己さんペアが参加されました。知念昌平さん･新垣裕己さんペアより大会報告がありますので紹介致します。

全中沖縄大会2025審判員を終えて

令和７年８月 22 日～ 25 日の４日間、上記の大会に参加させていただきました。本大会は初めて指名レフェリーとしてノミネートさせていただき、自身の担当試合のみならず、審判長の補佐や全国から集まった若手レフェリーへのアドバイス等も任せていただきました。

本大会で学んだことを以下に示します。

○　中学生カテゴリーにおいて、笛で選手を鍛えること等を目的とし、イエローカードを効果的に活用すること（開始 15 分間で基準を示す）

○　ファーストホイッスルは、ジェスチャーや３ m 確保も含め、丁寧に時間をかけて再開すること（リーダーシップ）

○　競技規則に則ったジェスチャーを正しく使い、チームや観客が求める魅力あるハンドボールゲームを展開すること（ゲームエンパシー）

○　退場者タイマーの確認や、タイムアウト後は、10 秒後に再開できるよう TO やジャッジズテーブルと密に連携すること（ゲームマネジメント）

私たち自身、教育的配慮のいらないカテゴリーも担当させていただく中、将来のハンドボール界を担う中学生に、ハンドボールを通して人間的にも成長させるという審判団の目標を鑑みて、レフェリーとして「基礎・基本に忠実に、特に人間性を発揮すること」の重要性を改めて学ぶ大会となりました。

最後になりますが、園谷審判長や派遣していただいた沖縄県協会の前上里審判長をはじめ、大会を成功に導いた県内役員・中学生補助役員等の皆さまに感謝し、以上報告といたします。ありがとうございました。

沖縄県　新垣裕己・知念昌平